



2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月12日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東
 コード番号 4118 URL <https://www.kaneka.co.jp/>
 代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）藤井 一彦
 問合せ先責任者（役職名）IR（Investors Relations）部長（氏名）井ノ口 敦也（TEL）03-5574-8090
 半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 2025年12月5日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（証券アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	397,428	0.4	14,963	△21.7	11,762	△18.3	11,049	8.7
2025年3月期中間期	395,963	7.0	19,101	51.5	14,391	13.0	10,162	14.2

（注）包括利益 2026年3月期中間期 14,540百万円（53.4%） 2025年3月期中間期 9,477百万円（△63.8%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	176.51	175.92
2025年3月期中間期	160.48	159.99

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	924,524	496,134	51.3
2025年3月期	920,143	492,419	51.2

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 474,054百万円 2025年3月期 471,278百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	60.00	—	70.00	130.00
2026年3月期	—	80.00	—	—	—
2026年3月期（予想）	—	—	—	80.00	160.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	800,000	△0.9	37,000	△7.6	31,400	△4.5	33,000	30.4	534.03

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期中間期	66,000,000株	2025年3月期	66,000,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期中間期	4,550,935株	2025年3月期	3,066,508株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年3月期中間期	62,598,751株	2025年3月期中間期	63,323,857株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・当社は、2025年11月12日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当中間期の経営成績の概況	P. 2
(2) 当中間期の財政状態の概況	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	P. 7
(1) 中間連結貸借対照表	P. 7
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	P. 9
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	P. 11
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	P. 13
(セグメント情報等の注記)	P. 13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 14
(継続企業の前提に関する注記)	P. 14

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

➤ 世界経済の状況 — 深刻な米国関税政策の影響と地政学リスク拡大 —

世界経済の停滞が続いています。

米国は利下げに動く一方、関税政策を背景とした物価高からインフレが進み不透明な情勢となっています。欧州の景気は当面減速、中国経済は内需不振と米国向け輸出の低調が重なり景気不振にあえいでいます。国内は海外経済の影響を受けて円安と消費者物価上昇および深刻な人手不足が続き、企業収益が下押しされています。

米国関税政策をめぐる世界経済への影響は長期化が予想され、先行きはますます不透明な状況です。

➤ 当社グループの業績 — 増収、純利益は増益 —

このような状況下、当社グループの当中間連結会計期間(2025年4月～9月)の業績は、売上高397,428百万円(前年同期比0.4%増)、営業利益14,963百万円(前年同期比21.7%減)、経常利益11,762百万円(前年同期比18.3%減)、親会社株主に帰属する中間純利益11,049百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

売上高は前年同期比で増収を確保し、営業利益・経常利益は減益となりましたが、純利益は増益となりました。

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結業績

(単位:百万円)

	2025年3月期 中間期	2026年3月期 中間期	増減
売上高	395,963	397,428	1,465 (0.4%)
営業利益	19,101	14,963	△4,137 (△21.7%)
経常利益	14,391	11,762	△2,629 (△18.3%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	10,162	11,049	887 (8.7%)

セグメント別売上高・営業利益

(単位:百万円)

	売上高				営業利益			
	2026年3月期				2026年3月期			
	1Q	2Q	中間期	前年同期比	1Q	2Q	中間期	前年同期比
Material SU	82,374	80,119	162,493	△7,410 (△4.4%)	6,265	6,336	12,602	△3,470 (△21.6%)
Quality of Life SU	48,466	48,550	97,017	3,603 (3.9%)	5,208	4,231	9,440	△111 (△1.2%)
Health Care SU	18,273	19,073	37,346	952 (2.6%)	3,131	2,875	6,007	563 (10.3%)
Nutrition SU	49,310	50,785	100,096	4,284 (4.5%)	2,680	3,273	5,953	△495 (△7.7%)
その他	257	216	474	35 (8.1%)	128	69	197	19 (11.0%)
調整額	-	-	-	-	△9,254	△9,983	△19,237	△642 (-)
計	198,682	198,746	397,428	1,465 (0.4%)	8,161	6,802	14,963	△4,137 (△21.7%)

➤ 全体像の俯瞰

Medicalは成長のスピードが加速し業績を牽引しています。Pharmaの本格的な回復は4Qになりますが、Health Care SU全体としては好調が続いています。

QOL SUはE&Iの回復が遅れ、前年同期比は小幅な減益となりました。

Supplementは好調を維持しましたが、Foodsの出遅れが響いてNutrition SU全体としては減益となりました。Foodsは下期回復を見込んでおり、Nutrition SUの年度計は増益を計画しています。

Vinylsの低迷とMOD・MSの停滞が響き、Material SUは減益となりました。

Material SUの減益が全社業績下振れの主要因となりました。

このような状況下、先端事業群(MS, E&I, PV, Medical, Pharma, Supplement)では差別化技術による拡販が進み、営業利益に占める割合が50%を超えることとなりました。事業ポートフォリオ変革が着実に進展しています。

各セグメントの状況は次のとおりです。

① Material Solutions Unit

当ユニットは、アジア市況の低迷が継続し米国の住宅・建築市場の需要低調と重なり、全体では減収減益となりました。

- Vinylsは、か性ソーダは前年の販売を上回りましたが、塩ビのアジア市況の低迷が続き、前年を下回る収益となりました。4Q以降の回復を見込んでいます。
- MODは、米国の住宅・建築市場の需要調整が継続し減益となりました。非塩ビ用途・MXなどの差別化力ある高付加価値製品の拡販に注力しています。
- MSは、1Qを底に欧米での需要が回復しています。欧州での拡販や他材料からの置換が進み、下期以降のグローバル需要の回復を見込んでいます。
- Green Planet®は、大型案件での顧客評価が順調に進んでいます。下期からの販売拡大に向けて供給体制の強化を着実に進めています。

② Quality of Life Solutions Unit

当ユニットは、Fiberの好調な販売、Foamの収益向上により全体では前年並みの利益となりました。

- Foamは、価格改定・コストダウンなどスプレッドの改善が進み増益となりました。引き続き採算性の向上に取り組み、収益拡大を図ります。
- E&Iは、ポリイミドフィルム・光学用アクリル樹脂の高水準の販売が続きましたが、原料高騰や為替影響により前年を下回る収益となりました。高付加価値グレード(高周波ポリイミド・アクリル樹脂改良品など)の拡販をさらに進め、収益拡大を実現します。
- PVは、国内住宅向け高効率太陽電池の販売が堅調に推移しました。建材一体型PVの市場拡大が進むとともに、次世代太陽電池(ペロブスカイト)におけるタンデム型の技術開発が着実に進展しています。
- Fiberは、頭髮製品の販売が好調に推移し増益となりました。難燃ファブリック分野は一部原料の急騰によりスプレッドが低迷しましたが、グローバル需要は確実に伸長しており事業基盤の拡大が進んでいます。

③ Health Care Solutions Unit

Medicalの躍進が目覚ましく当ユニットは増収増益となりました。下期も一層の収益拡大を見込んでいます。

- Medicalは、血液浄化器およびカテーテルで飛躍的な拡販が進み、当社最大の収益事業となりました。北海道新プラント(苫東工場、血液浄化器)は早々に戦力化を果たし、続くカテーテル新プラントの建設も順調に進んでいます。Medical事業の一層の成長を目指します。
- Pharmaは、バイオ医薬品の定修の影響や販売案件のずれ込みもあり、収益は低調に留まりました。低分子・バイオ医薬品の新規案件の実績化に向けた取り組みが進んでおり、下期以降は収益が大きく回復する見通しです。国内外での研究開発を強化しドメインを拡大する投資に注力しています。

④ Nutrition Solutions Unit

当ユニットは、好調なSupplementに加え、Foodsの高付加価値品シフトが進んだものの、増収・減益となりました。

- Supplementは、還元型Q10が米国市場を中心に拡販が進み、増益となりました。下期はグローバル市場で拡販がさらに進み、収益は着実に伸長する見込みです。
- Foods & Agrisは、2Qの価格改定および高付加価値品へのシフトが進み、スプレッドが改善しました。下期も高付加価値品へのシフト・「B2C」事業での新製品の拡販を進め、高水準の収益を確保する見通しです。

(2) 当中間期の財政状態の概況

- 資産、負債及び純資産の状況
当中間連結会計期間末の総資産は、棚卸資産、有形固定資産の増加などにより前期末に対して4,381百万円増加の924,524百万円となりました。
負債については、仕入債務の減少などの一方、借入金の増加により666百万円増加の428,390百万円となりました。
純資産については、利益剰余金の増加などにより3,714百万円増加の496,134百万円となり、自己資本比率は51.3%となりました。
- キャッシュ・フローの状況
当中間連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益や減価償却費などにより24,571百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより15,283百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払や自己株式の取得により9,370百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の残高は、44,288百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

世界経済は、米国関税問題が深刻化し、影響のさらなる長期化が懸念されます。また、地政学的リスクや為替変動など不確実な要素も根強く、経済の先行きは予断を許さない状況です。

このような状況下、当社はライフサイエンス領域を強化し、カネカならではの差別化技術により先端事業が成長を牽引するポートフォリオ変革を急ぎます。下期は、Health Care・QOL・NutritionのSU群を中心に、強い収益回復のモメンタムが戻ってくる見通しです。Materialも上期を底に業績が回復する見通しです。

収益を牽引するのはHealth Careです。特にMedicalの勢いは止まらない。新製品拡販と販売地域の拡大(アジア・米国)、M&Aなど事業基盤投資の強化によりさらなる業容拡大が進みます。Pharmaは3Qから低分子・バイオ医薬品ともにCDMO市場での販売が増加し、4Qは本格的に回復する見通しです。

QOL SUでは、Fiberは頭髮製品の高水準の販売が継続し、回復が遅れていたE&Iはポリイミドフィルム・光学用アクリル樹脂の堅調な販売に加え、高付加価値グレードの増販を見込んでいます。

Nutrition SUでは、Foodsのスペード改善がさらに進み、高付加価値品へのシフトと「B2C」製品の販売が拡大する見込みです。Supplementは一層の拡大が続きます。食品としてのサブリ展開を目指すHealthy Foods Strategic Unitの活動が、ポートフォリオ変革に寄与します。

Material SUでは、Vinylsは収益改善の地合いが生まれ、MOD・MSは欧米の住宅・建築市場が底を脱し、アジアを含めグローバル拠点で着実に販売を伸ばす見通しです。

総括すると、下期は成長のモメンタムに再び点火する局面を迎えます。但し、3Qは上昇気流で言えば飛翔の離陸であり、本格的に巡航速度を回復するのは4Qと見込んでいます。

以上のことを背景にすると、下期の業績回復のモメンタムは強くなりますが、上期の減益をオフセットすることは難しく、2025年5月14日公表の通期の連結業績予想については、下表のとおり修正いたします。

2026年3月期 (2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 820,000	百万円 42,000	百万円 38,000	百万円 33,000	円銭 524.36
今回修正予想 (B)	800,000	37,000	31,400	33,000	534.03
増減額 (B-A)	△ 20,000	△ 5,000	△ 6,600	-	
増減率 (%)	△2.4	△11.9	△17.4	-	
(参考)前期連結実績 (2025年3月期)	807,200	40,050	32,863	25,309	400.91

セグメント別業績予想

(単位:百万円)

	売上高			営業利益		
	前回予想	今回修正予想	増減	前回予想	今回修正予想	増減
Material SU	337,000	323,000	△ 14,000 (△4.2%)	31,000	26,800	△ 4,200 (△13.5%)
Quality of Life SU	196,000	195,000	△ 1,000 (△0.5%)	21,000	18,300	△ 2,700 (△12.9%)
Health Care SU	91,000	84,000	△ 7,000 (△7.7%)	17,100	17,000	△ 100 (△0.6%)
Nutrition SU	195,000	197,000	2,000 (1.0%)	13,700	14,700	1,000 (7.3%)
その他	1,000	1,000	- -	500	400	△ 100 (△20.0%)
調整額	-	-	-	△ 41,300	△ 40,200	1,100 (-)
計	820,000	800,000	△ 20,000 (△2.4%)	42,000	37,000	△ 5,000 (△11.9%)

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,639	45,249
受取手形、売掛金及び契約資産	176,793	172,942
商品及び製品	104,201	109,131
仕掛品	16,814	17,701
原材料及び貯蔵品	74,481	75,470
その他	28,420	27,177
貸倒引当金	△1,824	△1,897
流動資産合計	444,524	445,776
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	107,322	107,864
機械装置及び運搬具(純額)	127,404	125,574
その他(純額)	105,708	112,235
有形固定資産合計	340,435	345,674
無形固定資産		
のれん	2,671	2,265
その他	30,488	30,544
無形固定資産合計	33,159	32,810
投資その他の資産		
投資有価証券	61,184	59,393
退職給付に係る資産	21,205	21,530
その他	19,978	19,683
貸倒引当金	△343	△343
投資その他の資産合計	102,023	100,263
固定資産合計	475,618	478,747
資産合計	920,143	924,524

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	92,144	87,512
短期借入金	132,511	140,145
未払法人税等	7,013	6,066
引当金	2,235	1,363
その他	61,029	65,236
流動負債合計	294,933	300,325
固定負債		
社債	15,000	15,000
長期借入金	57,972	54,135
引当金	905	760
退職給付に係る負債	22,032	22,139
その他	36,880	36,029
固定負債合計	132,790	128,065
負債合計	427,724	428,390
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	29,871	29,906
利益剰余金	349,925	356,569
自己株式	△11,725	△18,073
株主資本合計	401,118	401,448
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,463	27,484
為替換算調整勘定	24,847	27,672
退職給付に係る調整累計額	17,848	17,448
その他の包括利益累計額合計	70,159	72,606
新株予約権	658	770
非支配株主持分	20,482	21,308
純資産合計	492,419	496,134
負債純資産合計	920,143	924,524

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	395,963	397,428
売上原価	285,868	288,903
売上総利益	110,095	108,525
販売費及び一般管理費	90,994	93,561
営業利益	19,101	14,963
営業外収益		
受取配当金	943	1,067
持分法による投資利益	80	35
その他	773	770
営業外収益合計	1,797	1,873
営業外費用		
支払利息	2,067	2,023
固定資産除却損	1,208	1,268
為替差損	1,837	586
その他	1,393	1,196
営業外費用合計	6,507	5,074
経常利益	14,391	11,762
特別利益		
投資有価証券売却益	1,749	6,161
特別利益合計	1,749	6,161
特別損失		
災害による損失	504	-
訴訟関連費用	-	586
事業整理損	-	529
特別損失合計	504	1,115
税金等調整前中間純利益	15,636	16,808
法人税、住民税及び事業税	4,333	5,280
法人税等調整額	390	△279
法人税等合計	4,723	5,000
中間純利益	10,912	11,808
非支配株主に帰属する中間純利益	750	758
親会社株主に帰属する中間純利益	10,162	11,049

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	10,912	11,808
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,243	30
繰延ヘッジ損益	0	-
為替換算調整勘定	2,121	3,101
退職給付に係る調整額	△314	△400
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	△1,435	2,731
中間包括利益	9,477	14,540
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	8,725	13,496
非支配株主に係る中間包括利益	751	1,044

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	15,636	16,808
減価償却費	21,413	23,185
災害による損失	504	-
訴訟関連費用	-	586
事業整理損	-	529
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	-	△325
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△947	△643
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	0
受取利息及び受取配当金	△1,125	△1,193
支払利息	2,067	2,023
持分法による投資損益(△は益)	△80	△35
固定資産処分損益(△は益)	499	469
投資有価証券売却損益(△は益)	△1,749	△6,161
売上債権の増減額(△は増加)	19,919	4,846
棚卸資産の増減額(△は増加)	△12,707	△5,332
仕入債務の増減額(△は減少)	△13,258	△5,136
その他	△775	2,658
小計	29,396	32,279
利息及び配当金の受取額	1,147	1,208
利息の支払額	△2,081	△1,997
訴訟関連費用の支払額	-	△586
法人税等の支払額	△5,438	△6,332
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,023	24,571
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△28,335	△22,260
有形固定資産の売却による収入	22	113
無形固定資産の取得による支出	△2,326	△1,988
投資有価証券の取得による支出	△1,389	△51
投資有価証券の売却による収入	2,194	9,085
貸付けによる支出	△144	△161
貸付金の回収による収入	118	180
その他	△572	△202
投資活動によるキャッシュ・フロー	△30,432	△15,283

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	22,531	6,936
長期借入れによる収入	31	38
長期借入金の返済による支出	△6,461	△4,857
社債の償還による支出	△5,000	-
リース債務の返済による支出	△518	△548
自己株式の取得による支出	△5,019	△6,351
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△3,528	△4,405
非支配株主への配当金の支払額	△205	△175
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△277	△6
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,553	△9,370
現金及び現金同等物に係る換算差額	650	△261
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△5,205	△343
現金及び現金同等物の期首残高	43,278	44,631
現金及び現金同等物の中間期末残高	38,073	44,288

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	169,904	93,413	36,394	95,812	395,525	438	395,963	—	395,963
セグメント間の 内部売上高又は振替高	108	59	90	22	280	601	882	△882	—
計	170,013	93,473	36,484	95,834	395,805	1,040	396,846	△882	395,963
セグメント利益	16,073	9,552	5,443	6,449	37,518	178	37,696	△18,595	19,101

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	37,518
「その他」の区分の利益	178
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△18,677
その他の調整額	82
中間連結損益計算書の営業利益	19,101

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

II 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	Material Solutions Unit	Quality of Life Solutions Unit	Health Care Solutions Unit	Nutrition Solutions Unit	計				
売上高									
外部顧客への売上高	162,493	97,017	37,346	100,096	396,954	474	397,428	—	397,428
セグメント間の 内部売上高又は振替高	126	37	22	35	222	708	930	△930	—
計	162,620	97,054	37,368	100,132	397,176	1,182	398,359	△930	397,428
セグメント利益	12,602	9,440	6,007	5,953	34,003	197	34,201	△19,237	14,963

(注) 1 「その他」は、報告セグメントに含まれない損害保険・生命保険の代理業務等であります。

2 セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	34,003
「その他」の区分の利益	197
セグメント間取引消去	0
全社費用(注)	△19,281
その他の調整額	43
中間連結損益計算書の営業利益	14,963

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。